



まだ見ぬ色に向かって

『未熟』というタイトルのこの絵は、「怒り」の感情が「悲しみ」や「悔しさ」に変わる過程を描いたものだといえます。作者である穂乃花さんの武器は、「色使い」。40もの絵の具を混ぜ、複雑に入り混じった感情を描きました。

日本語では、未熟なさまを

「青い」と言うことがあります。

昔の日本では、青と緑の区別がなく、

熟す前の果実の色も「青」と表しました。

そこからこの慣用表現が生まれたそうです。

人の思いは刻々と変化します。

ネガティブな感情も時とともに

良き思い出になったりするから不思議です。

今春、高校を卒業した穂乃花さん。

新しい環境で、新たな感情に出会った時、

その心に広がるグラデーションは

きつとまた、独自の美を放つのでしょうか。